

2017 年度報告書

学校法人 京都薬科大学

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町 5 番地

電 話 (075) 595-4600 (代表)

目 次

I 2017 年度事業報告

1 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革.....	1
(3) 組織	3
(4) 系列の状況	4
(5) 役員に関する事項.....	4
(6) 評議員に関する事項.....	4
(7) 職員に関する事項.....	5
(8) 設置する学校、学部、学科等.....	5

＜大学＞

(1) 薬学部薬学科	6
(2) 学生数の状況	7
(3) 学生数の推移	8
(4) 入学志願者数の推移.....	8
(5) 学位授与の状況	8
(6) 就職・進路の状況	8
(7) 薬剤師国家試験の推移.....	9
(8) 学生の就学支援（京都薬科大学奨学金）	10

＜大学院＞

(1) 大学院薬学研究科.....	11
(2) 大学院学生数の状況.....	12
(3) 大学院留学生の国別状況.....	12
(4) 大学院学生数の推移.....	13
(5) 大学院入学志願者数の推移.....	13
(6) 学位授与の状況	13
(7) 大学院学生就職・進路の状況.....	14
(8) 大学院学生の日本学術振興会特別研究員採用状況	14
(9) 大学院学生の就学支援（京都薬科大学奨学金他）	14

＜その他＞

(1) 2017 年度の主な補助金の状況	15
----------------------------	----

2 2017 年度事業の概要..... 16

3 マスタープラン及び第 3 期中期計画..... 21

4 財務の概要

(1) 発行体格付け（旧長期優先債務格付け）	26
(2) 財務概要経年比較.....	26
(3) 財務指標経年比較.....	28
(4) 財産目録	29

5	理事会、常任理事会及び評議員会に関する事項	
(1)	理事会	30
(2)	常任理事会	33
(3)	評議員会	36

II 2017 年度財務報告

1	資金収支計算書.....	37
	資金収支内訳表	40
	人件費支出内訳表.....	42
2	活動区分資金収支計算書.....	43
3	事業活動収支計算書	47
	事業活動収支内訳表.....	49
4	貸借対照表.....	51
	固定資産明細表	54
	基本金明細表	55
5	財産目録.....	58
6	監査報告書.....	66

I 2017 年度事業報告

1 法人の概要

(1) 建学の精神

あい がく きゅう こう
愛 学 躬 行

Philosophia et Praktikos

本学は、1884(明治17)年、京都府御雇ドイツ人教師、ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者18名が設立した京都私立独逸学校をその礎としています。

彼らはドイツ語を通じて西洋の医学、薬学の知識を修得しようとした愛学の徒です。その後本学は、1892(明治25)年に私立京都薬学校、1919(大正8)年に京都薬学専門学校を経て、1949(昭和24)年に京都薬科大学へと昇格しましたが、その建学の精神である「愛学躬行」は今に受け継がれています。

「愛学躬行」という言葉は、ラテン語の“Philosophia et Praktikos”を翻訳したもので、Philosophiaは「愛知」や「哲学」を意味する。Praktikosは「実践」や「躬行」を意味しています。躬行という言葉は「言ったことを自ら実際に行うこと」で有言実行に近いものです。

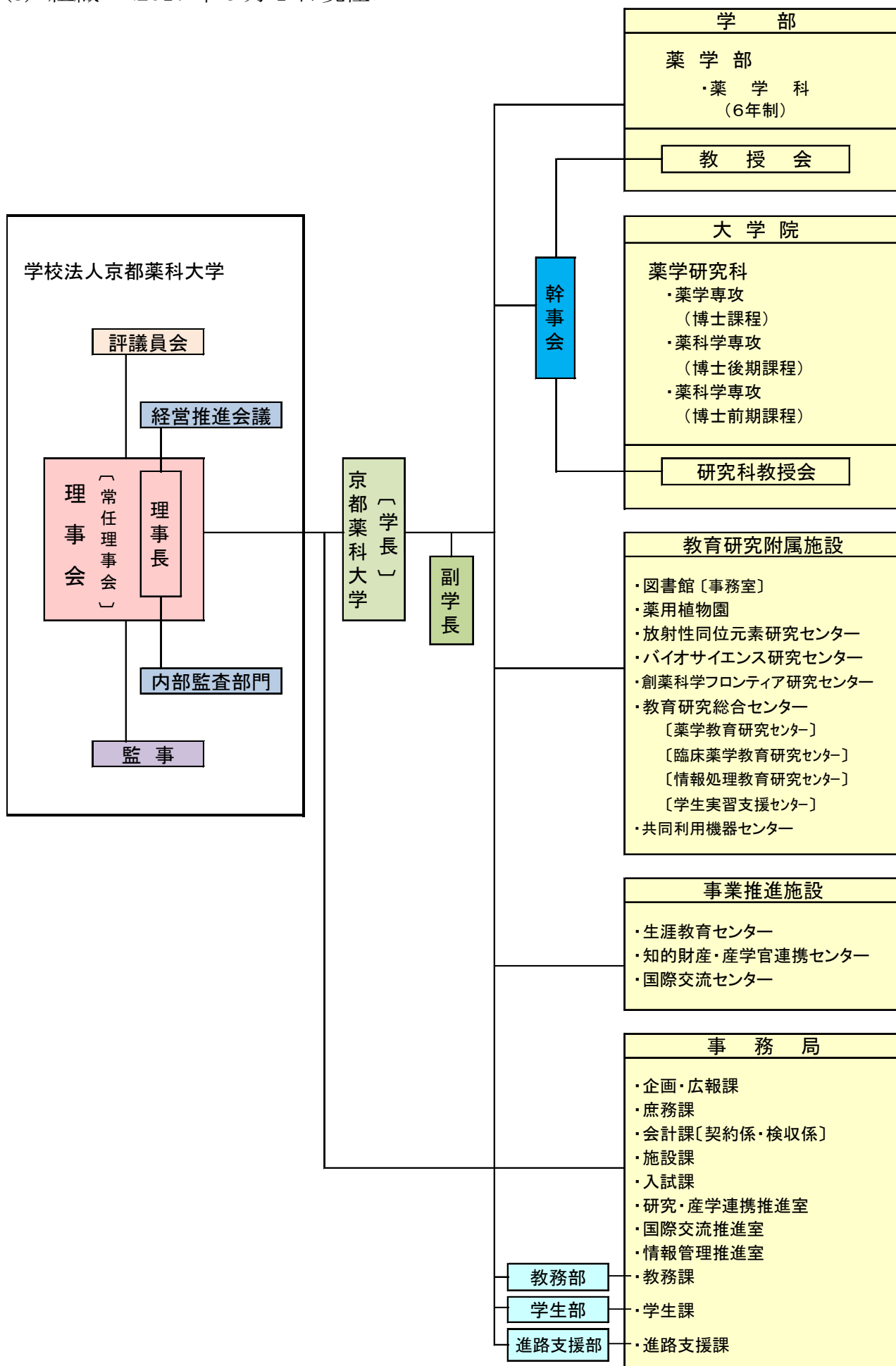
本学では「愛学躬行」の基となったラテン語の“Philosophia et Praktikos”という言葉を入校式ホール正面に掲げ、本学の建学の精神として末永く伝えることとしています。

(2) 学校法人の沿革

- 1884年 ドイツ人ルドルフ・レーマン博士に学んだ人々が協力して上京区（現在は中京区）
富小路夷川下ルに京都私立独逸学校を創立 別科として薬学科を開設
- 1889年 校舎を上京区（現在は中京区）河原町三条上ルに移し、医学予備校を併置
- 1892年 薬学科を廃し、私立京都薬学校を設立
- 1898年 上京区（現在は左京区）夷川通川端東入ル秋築町に移転
- 1902年 医学予備校を廃止
- 1919年 専門学校令により京都薬学専門学校を設立、私立京都薬学校を廃止
- 1932年 東山区（現在は山科区）山科御陵中内町に校舎を新築し移転
- 1949年 学校教育法により「京都薬科大学」が認可
- 1951年 学校法人京都薬科大学を設立
- 1952年 京都薬学専門学校を廃止
- 1956年 東山区（現在は山科区）山科御陵中筋町に運動場を建設
- 1959年 図書館新築
- 1960年 旧南校舎（7号館）新築
- 1962年 薬学部製薬化学科増設
- 1964年 創立80周年記念事業の一環として2ヶ年計画で校舎の増改築を実施
- 1965年 東校舎（5号館）新築、1966年北校舎（4号館）、中校舎（6号館）新築
- 1965年 大学院薬学研究科修士課程設置
- 1968年 伏見区日野林に薬用植物園移転拡充
- 1970年 中央動物研究施設（動物研究センター）新築
- 1971年 山科区御陵四丁野町（本校地より南約50m）に新校地を購入
- 1972年 中央講堂兼体育館新築
- 1973年 南校舎（教養課程）新築、薬学部生物薬学科増設、3学科制となる
実習研究棟（現育心館）建設
- 1974年 図書館書庫増築
- 1976年 製薬化学科、生物薬学科の入学定員増員
- 1977年 大学院薬学研究科博士後期課程設置
- 1979年 放射性同位元素研究センター（RIセンター）新築
- 1981年 大学ホール新築、中央動物研究施設（動物研究センター）改築
- 1983年 北西校舎（現教育研究総合センター）新築
- 1984年 創立100周年
- 1985年 創立100周年記念事業として滋賀県滋賀郡志賀町に蓬萊セミナーハウス新築

1986 年	山科区御陵四丁野町（南校舎隣接地）に新校地を購入しテニスコート新設
1988 年	創立 100 周年記念事業として生命薬学研究所（現 S 棟）新築
1993 年	大学院薬学研究科修士課程入学定員増員
1995 年	大学入試センター試験導入
1997 年	臨床薬学研修センター、情報処理センターの設置
1999 年	大学院修士課程に臨床薬学専攻設置、創薬科学フロンティア研究センター新築
2000 年	本館、1 号館取壊し
2001 年	学生会館 Pavot（パボ）新築
2003 年	創立 120 周年記念募金事業として愛学館 3 階に愛学ホール設置、7 号館取壊し
2004 年	創立 120 周年 創立 120 周年記念事業(回顧写真展、物故者追悼式、ルドルフ・レーマン博士墓所修復)
2005 年	創立 120 周年記念事業として愛学館新築 創立 120 周年記念事業（愛学館竣工式・見学会、記念式典・祝賀会、 「京薬のあゆみとともに」・「創立 120 周年記念誌」発刊、CD-ROM） 薬学教育 6 年制の認可 薬学 6 年制学生募集開始、薬学 4 年制課程学生募集停止
2006 年	4・5 号館取壊し 薬学 6 年制課程設置
2007 年	「京都薬科大学中期計画」の答申及び中期計画「躬行プラン」の推進 臨床薬学教育研究センター新築 2 号館、RI センター、大学ホールを取壊し、RI センターは、南校地 S 棟に移転 蓬萊セミナーハウス廃止
2008 年	8 号館一部取壊し
2009 年	大学院薬科学専攻博士前期課程学生募集開始
2010 年	躬行館新築 大学院薬学専攻博士前期課程及び臨床薬学専攻修士課程学生募集停止 大学院薬科学専攻博士前期課程設置 6 号館及び図書館取壊し 8 号館を改修し育心館に改称 立体駐輪場新築
2011 年	大学院薬学専攻博士課程及び薬科学専攻博士後期課程の学生募集開始 生涯教育センター設置 中央庭園完成 奏楽館新築 薬用植物園補助園完成 立体駐輪場屋上に 50kW 太陽光発電設備設置
2012 年	南校舎取壊し 第 2 期中期計画の策定 大学院薬学専攻博士課程及び薬科学専攻博士後期課程設置
2013 年	バイオサイエンス研究センター竣工 南校地テニス部・部室棟の建設
2014 年	薬用植物園補助園温室新築 グラウンド人工芝敷設完了 創立 130 周年記念事業（記念式典・記念講演・祝賀会） 南校地整備（厚生・実験棟の南風館新築、危険物・廃溶剤倉庫新築、警備員室新築、 外構改修）
2015 年	創立 130 周年記念館新築 創立 130 周年記念館屋上に 100kW 太陽光発電設備設置
2016 年	躬行館停電対応型ガスコージェネレーション設備設置
2017 年	愛学躬行歴史資料室設置

(3) 組織 <2017 年 5 月 1 日現在>



(4) 系列の状況

学校法人が株式を 50%以上保有している、または、出資割合が 50%以上の法人はありません。

(5) 役員に関する事項(2017 年 5 月 1 日現在)

＜理事：11 人 監事：2 人＞

役 職	氏 名	選 出 区 分
理 事 長	武田 禮二	有 識 者
常任理事	後藤 直正	学 長
常任理事	赤路 健一	副 学 長
常任理事	土屋 勝	評 議 員
常任理事	村澤 悟	有 識 者
理 事	北出 達也	評 議 員
理 事	中田 徹男	評 議 員
理 事	森田 和子	評 議 員
理 事	山口 泰秀	評 議 員
理 事	大原 松雄	有 識 者
理 事	人見 裕司	有 識 者
監 事	松岡 史郎	—
監 事	村山猪一郎	—

(6) 評議員に関する事項(2017 年 5 月 1 日現在)

＜評議員数：30 人＞

氏 名	選 出 区 分
後藤 直正	学 長
赤路 健一	副 学 長
秋葉 聡	職 員
北出 達也	〃
長澤 一樹	〃
中田 徹男	〃
西口 工司	〃
安井 裕之	〃
神田 和正	卒 業 者
久米 光	〃
白木太一郎	〃
高美 時郎	〃
田中 正勝	〃
土屋 勝	〃
松井 常孝	〃
三河 忠宏	〃
宮川 克之	〃

氏 名	選 出 区 分
森 新	卒 業 者
森田 和子	〃
山口 泰秀	〃
山下 節子	〃
山田 作夫	〃
大原 松雄	有 識 者
児玉 孝	〃
佐々木康夫	〃
武田 禮二	〃
田中 徳雄	〃
谷村 和治	〃
人見 裕司	〃
村澤 悟	〃

(7) 職員に関する事項 (2017 年 5 月 1 日現在)

<職 員 数>

①教育職員： 112 人
(内訳)

職 名	人数
学 長	1
副 学 長	1
教 授	42
准 教 授	19
講 師	15
助 教	26
助 手	8

②事務職員： 59 人
(内訳)

職 名	人数
事務局長	1
事務局参事	1
課長・主幹・補佐	12
係長・主査	11
主 事	17
事 務 員	9
契約職員	4
契約事務職員	4

③役職者一覧

役 職	氏 名
学長	後藤 直正
副学長	赤路 健一
研究科長	赤路 健一
教務部長	秋葉 聡
学生部長	長澤 一樹
進路支援部長	栄田 敏之
図書館長	安井 裕之
事務局長	山下 馨
創薬科学フロンティア研究センター長	赤路 健一
共同利用機器センター長	赤路 健一
薬用植物園長	松田 久司
放射性同位元素研究センター長	後藤 直正
バイオサイエンス研究センター長	山本 昌
薬学教育研究センター長	細井 信造
臨床薬学教育研究センター長	矢野 義孝
情報処理教育研究センター長	藤原 洋一
学生実習支援センター長	北出 達也
生涯教育センター長	北出 達也
知的財産・産学官連携センター長	後藤 直正
国際交流センター長	後藤 直正

(8) 設置する学校、学部、学科等

設置する学校	学 部 ・ 学 科 等
京都薬科大学大学院	薬学研究科 (薬学専攻、薬科学専攻)
京都薬科大学	薬学部 (薬学科)

<大学>

教育理念

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

教育目的

本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼備した薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とする。

(1) 薬学部薬学科

<ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）>

京都薬科大学は、教育理念および教育目的に基づき、また、「薬剤師として求められる基本的な資質」を踏まえ、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた薬剤師である「ファーマシスト・サイエンティスト」の基本的な素養を身につける教育を行う。本学のカリキュラムにより所定の単位を修得し、ファーマシスト・サイエンティストとしての次の5つの素養を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与する。

- DP1. 多様な医療関連分野において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を統合的に活用できる。（科学・技術）
- DP2. 問題発見・解決において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を基に思考・実証できる。（科学・技術）
- DP3. 社会での薬学的知識・技術の活用において、生命を尊重する倫理観および幅広い教養を基に他者の多様性に対応できる。（人間性）
- DP4. 薬学的知識・技術を基に多職種連携を担ううえで、他職種との協働に対応できる。（人間性）
- DP5. 自己研鑽し続け、医療の進歩への対応と後進の育成に臨む意欲と行動力を有している。（科学・技術・人間性）

薬剤師免許を取得した本学卒業生は、ファーマシスト・サイエンティストの基本的な素養を身につけた薬剤師として、臨床領域をはじめ、創薬科学産業領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、医療に関連する多様な領域において、新たな活力となることが期待される。

<カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）>

京都薬科大学は、ファーマシスト・サイエンティストとしての素養を身につける教育を行うため、次の方針を基に体系的なカリキュラムを編成・実施する。

カリキュラムの編成においては、学生がディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を修得するために、基礎的な知識・技術・態度の修得にはじまり、これらを統合して思考・表現する能力、さらには、活用して行動する実践力の順に、年次進行的に身につける系統的なカリキュラムの編成を基本方針とする。

この編成方針に基づいたカリキュラムにおける学修内容は、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠し、「薬学準備教育ガイドライン」、「薬学アドバンスト教育ガイドライン」、「薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年2月）」を踏まえて設定することを基本とする。これらに本学独自の学修内容を加え、5つの各素養を身につけるための学修内容を以下の各方針に基づいて授業科目群として順次性をもって編成し、各授業科目に応じた到達目標・学修内容・評価方法を設定することによってカリキュラムを実施する。

CP1. 専門的実践力の養成（科学・技術）

初年次における薬学準備教育の充実により、高等学校と大学との知識を連結させ、薬学への関心を高める。「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、本学独自の学修内容で体系的に薬学を学ぶことにより、高度な知識、統合的な思考力、技術、態度を身につけ、医療を通じて人に奉仕し、社会に貢献できる能力を育む。

CP2. 研究的思考・実践力の養成（科学・技術）

総合薬学研究（卒業論文研究）において、最先端の科学に接することにより、4年次までに培った統合的思考力と技術をさらに高め、これらを基盤とした問題発見・解決能力を養成する。さらに5年次

より探求薬学コースあるいは実践薬学コースへのコース選択により、専門性を深化させその領域において創造性を発揮できる能力を育む。

CP 3. 教養・倫理観・多様性への配慮を伴う人間性の醸成（人間性）

他者に対する興味・関心を高めるために、初年次から教養教育および語学教育を充実させ、幅広い教養と視野を身につけ、医療に関わる専門家として、より深く他人を思いやる心と生命を尊重する倫理観を育む。

CP 4. 多様性の中での協働力の養成（人間性）

初年次におけるアクティブラーニング的な学習形態を取り入れた少人数教育（早期体験学習、基礎演習）等を発端とし、総合薬学研究における分野等での他者との協働活動や実務実習において様々なニーズをもつ人々と接することで、実践的コミュニケーション能力を高め、医療機関や地域におけるチーム医療を始めとする様々な環境や職域において活躍できる能力を育む。

CP 5. 自己研鑽意欲と教育意欲の醸成（科学・技術・人間性）

総合薬学研究における分野等での研究活動を通じて、自ら答を見つけることの困難さを実感し、日々進歩する医療に対応するために常に自己研鑽する意欲と態度を身につけ、他者に対し指導や議論、プレゼンテーションをすることにより、後進を育成する意欲や行動力を育む。

この方針を基に編成したカリキュラムの全体像を示すカリキュラムマップおよび個々の授業計画（到達目標・学修内容・評価方法）をシラバスに記載する。

<アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）>

京都薬科大学は、「愛学躬行」を建学精神とし、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を兼ね備え、医療・創薬・生命科学の発展に貢献できる薬剤師の養成を目指している。入学者は本学の建学精神や教育理念・教育目的をよく理解し、薬学を学ぶことに強い熱意をもって学士（薬学）に求められる素養を身につけることが要求される。そのために以下の能力を備えた者を、各種選抜試験を通して入学させる。

AP 1. 理科や数学などの基礎科学に加え、英語力など、薬学を学ぶ上で必要な、幅広くバランスの取れた知識や技能を有している。（知識・技能）

AP 2. 論理的に思考・表現し、自らの考えを的確に他者に伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）

AP 3. 自ら進んで物事の課題や問題点を考え、解決するために努力できる。（主体性）

AP 4. 思いやりと協調性を持ち、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。（協働態度）

参考1：カッコ内の語句は以下の「学力の三要素」である。

(1)知識・技能 (2)思考力・判断力・表現力等の能力 (3)主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

参考2：3ポリシーの関連性

DPの項目を身につけるために、CPに基づいてカリキュラムを編成する。このカリキュラムで学修する学生を、APの全項目または一部に基づいた入学試験を通して選抜する。

(2) 学生数の状況（2017年5月1日現在）

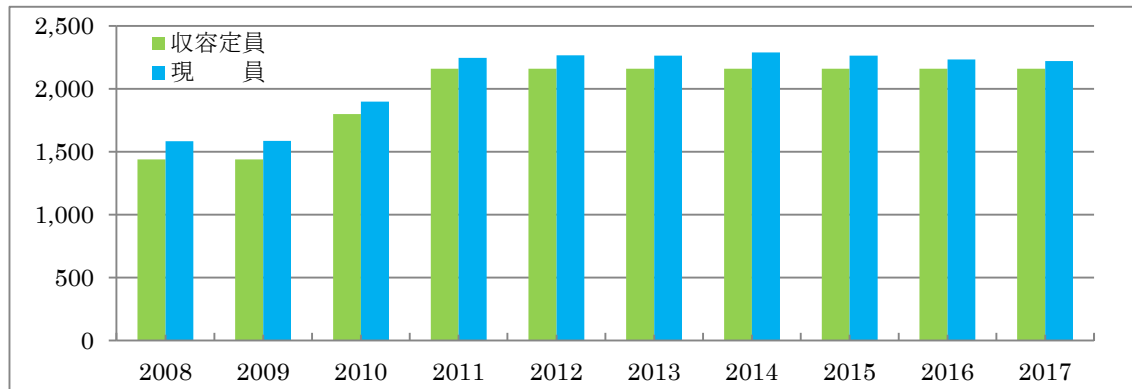
区 分	年 次	定 員	現 員	男(比率)	女(比率)
薬学部 薬学科	1年次生	360	395	122(30.9%)	273(69.1%)
	2年次生	360	393	133(33.8%)	260(66.2%)
	3年次生	360	361	130(36.0%)	231(64.0%)
	4年次生	360	359	109(30.4%)	250(69.6%)
	5年次生	360	347	110(31.7%)	237(68.3%)
	6年次生	360	365	110(30.1%)	255(69.9%)
	計	2,160	2,220	714(32.2%)	1,506(67.8%)

<参考> 2018年度学部新入生の人数（2018年4月2日現在）

年 次	定 員	現 員	男(比率)	女(比率)
新1年次生	360	407	131(32.2%)	276(67.8%)

(3) 学生数の推移 (2017 年 5 月 1 日現在)

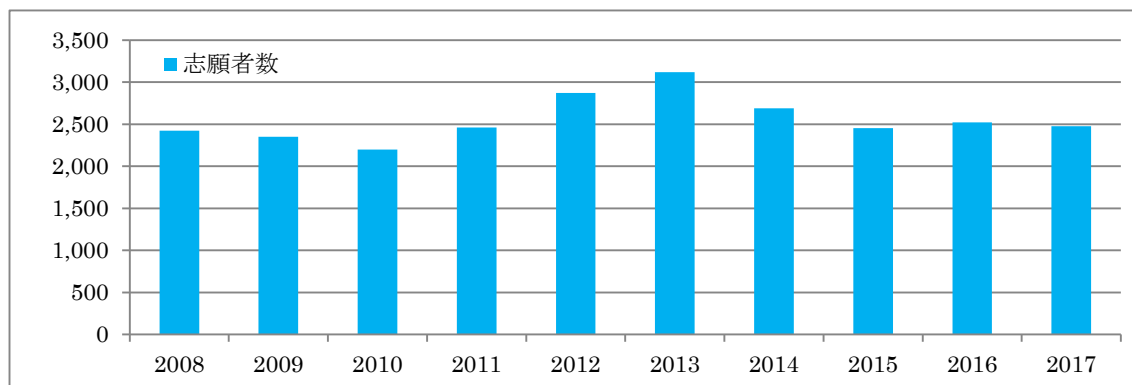
年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
収容定員	1,440	1,440	1,800	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160
現 員	1,583	1,587	1,899	2,246	2,266	2,263	2,290	2,263	2,232	2,220



(4) 入学志願者数の推移

年 度※	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
志願者数	2,421	2,352	2,197	2,462	2,870	3,118	2,687	2,453	2,521	2,475

※ 年度は、入学試験を実施した年度（例：年度「2017」は、2017年度に実施した2018年度入学試験の志願者数）



(5) 学位授与の状況 (2018 年 3 月卒業者)

区分	人数
学士	335

(6) 就職・進路の状況 (2018 年 3 月卒業者<2018 年 3 月 31 日時点>)

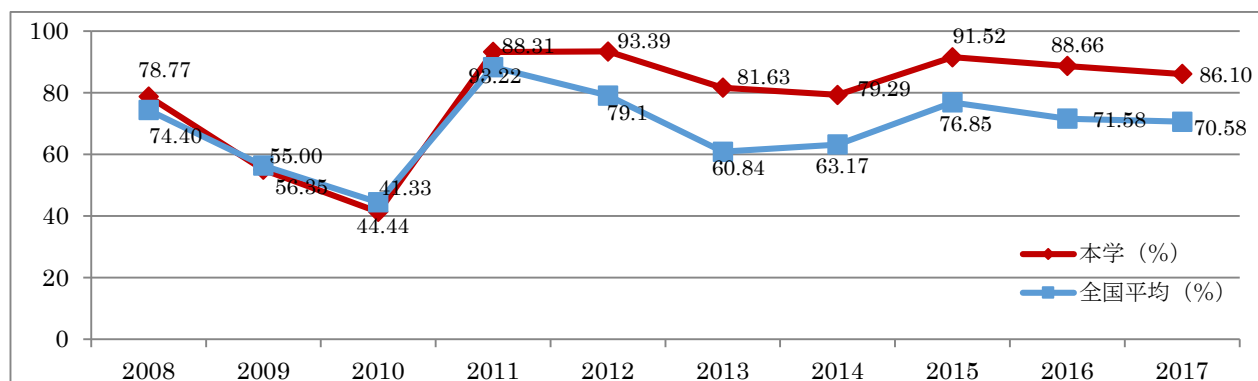
区分	人数	割合(%)	区分		人数	割合(%)
製薬企業等	110	32.8	進学	本 学	7	2.1
薬局・医薬品販売業	117	34.9		他大学	2	0.6
病院等	74	22.1	他大学入学		1	0.3
公務員	8	2.4	本学研修員		13	3.9
独立行政法人 (除病院)	1	0.3	その他		2	0.6
合計					335	100.0

(7) 薬剤師国家試験の推移

<総 数>

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
出願者数								494	435	408
受験者数	471	160	75	339	378	343	425	448	397	374
合格者数	431	88	31	316	353	280	337	410	352	322
合格率(%)	78.77	55.00	41.33	93.22	93.39	81.63	79.29	91.52	88.66	86.10

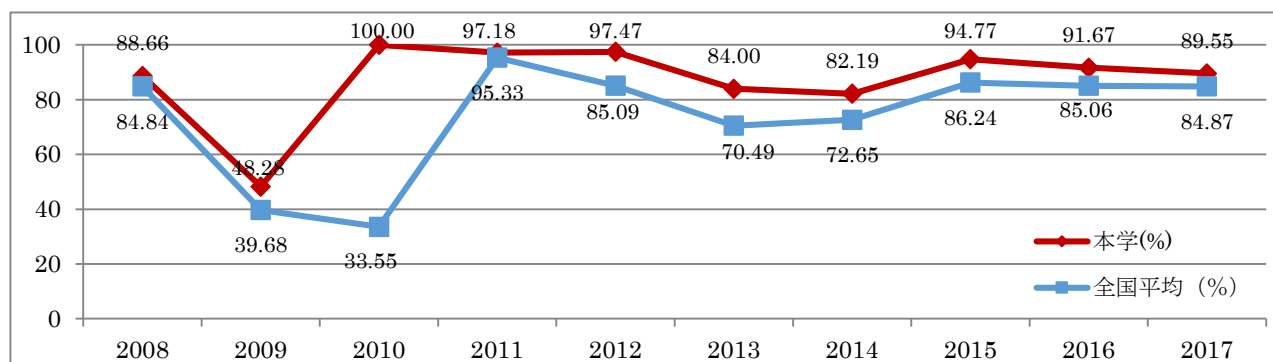
[合格率の推移]



<新 卒>

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
出願者数								401	391	363
受験者数	344	29	2	319	356	325	365	363	360	335
合格者数	305	14	2	310	347	273	300	344	330	300
合格率(%)	88.66	48.28	100.00	97.18	97.47	84.00	82.19	94.77	91.67	89.55

[新卒合格率の推移]



<既 卒>

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
出願者数								76	31	35
受験者数	127	131	73	20	22	18	60	73	29	34
合格者数	66	74	29	6	6	7	37	63	22	22
合格率(%)	51.97	56.49	39.73	30.00	27.27	38.89	61.67	86.30	75.86	64.71

①京都薬科大学奨学金制度

②2017年度の奨学金実績（人数）

制度の種類		学年						計
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	
給付型奨学金	入試成績優秀者	10	－	－	－	－	－	10
	成績優秀者	－	15	15	15	15	15	75
	研究・課外活動優秀者	－	1	0	8	3	3	15
	遠隔地出身者	10	10	10	－	－	－	30
授業料減免型奨学金		3	3	4	2	5	6	23
貸与型奨学金（無利子貸与）		1	1	1	1	1	0	5
計								158

＜大学院＞

（1）大学院薬学研究科

教育理念

薬学の教育及び研究をより一層推進することにより、学術研究の高度化とともに、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

教育目的

高度な薬学の知識と研究能力を身につけ、基礎薬学系及び臨床薬学系の様々な薬学の分野で自立した研究活動を行うことができ、かつ、国際的貢献できる有用な人材を育成する。

＜ディプロマ・ポリシー＞

薬学専攻博士課程

本課程のカリキュラムにより、基礎薬学あるいは臨床薬学における高度な学識と研究能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ、独創的研究に基づく博士論文を提出し、研究科教授会が実施する最終試験に合格した学生に学位（博士（薬学））を授与する。学位授与の基準は下記のとおりである。

1. 薬学の様々な学術分野における高度な専門的知識と独創的な研究能力を有すること（基礎薬学研究者）
2. 医療に関する高度な専門的知識と臨床薬学研究能力を有すること（臨床薬学研究者、臨床薬剤師）
3. 高度な研究能力を有する医療人としての豊かな教養及び高い倫理観並びに協調性を有すること
4. 国際的に活躍できる専門性と語学力を有すること

なお、博士の学位は、本学に博士論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも授与する。

薬科学専攻博士前期課程

本課程のカリキュラムにより、様々な薬学の分野で高度な学識と研究能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ、修士論文を提出し、研究科教授会が実施する最終試験に合格した学生に学位（修士（薬科学））を授与する。学位授与の基準は下記のとおりである。

1. 創薬科学や生命科学などの基盤的学術分野における専門的知識と技能を修得していること
2. 薬学研究者としての豊かな教養及び高い倫理観を有すること

薬科学専攻博士後期課程

本課程のカリキュラムにより、様々な薬学の分野で高度な学識と研究能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ、独創的研究に基づく博士論文を提出し、研究科教授会が実施する最終試験に合格した学生に学位（博士（薬科学））を授与する。学位授与の基準は下記のとおりである。

1. 創薬科学や生命科学などの基盤的学術分野における高度な専門的知識と独創的な研究能力を有すること
2. 高度な研究能力を有する薬科学研究者としての豊かな教養及び高い倫理観並びに協調性を有すること
3. 国際的に活躍できる専門性と語学力を有すること

なお、博士の学位は、本学に博士論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも授与する。

＜カリキュラム・ポリシー＞

薬学専攻博士課程

基礎薬学及び臨床薬学研究を推進できる人材の養成を目指す。本課程は「基礎薬学コース」と「臨床薬学コース」から成っており、特論講義、総合薬学セミナー及び薬学研究演習を通じて、医療及び薬学の様々な学術分野における高度な専門知識と独創的な研究能力を身につけ、国際的に活躍できる臨床薬剤師並びに創薬及び臨床医薬品開発などの場で活躍できる基礎薬学研究者・臨床薬学研究者を養成する教育課程となっている。また、「がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース」及び「個別化がん薬物療法を専門とする薬剤師養成コース」も設置しており、がん薬物療法について深い知識と臨床経験を有し、先端のがん研究の発展に貢献できる薬学研究者の養成及びがん薬物療法についての様々な学術分野に関する高度な専門知識と基礎又は臨床薬学研究能力を有し、患者のライフステージに応じた個別化医療を実践できる薬剤師の養成を目指す。

薬科学専攻博士前期課程

4 年制学部を基礎とする薬科学専攻修士課程であり、創薬科学及び生命科学などの基礎薬学の基盤的・先端的な専門知識と技能を修得し、独創的な創薬研究を担うための能力を養い、後続する博士後期課程において独創的な研究を実施するための訓練期間も兼ねている。教育内容は、特論講義、公開セミナー、演習及び課題研究により構成される。

薬科学専攻博士後期課程

創薬科学や生命科学などの基礎薬学領域における研究を推進できる独創的な研究能力と学識を有し、国際的に活躍できる高度な研究者の養成を目指すとともに、課題研究、総合薬学セミナー及び薬科学研究演習などを通して、薬科学研究者を養成する。

<アドミッション・ポリシー>

薬学専攻博士課程

本専攻は 6 年制学部を基礎とする博士課程であり、薬学の様々な学術分野における高度な専門的学識と独創的な研究能力を有した基礎及び臨床薬学研究者並びに臨床薬剤師の養成を目的としています。また、医薬品開発全般を統括できる人材の養成や専門薬剤師の育成も支援します。このため、薬学関連の学術分野への研究志向をもち、知的好奇心に満ち柔軟な思考能力を有する創造力あふれる学生を求めます。

本専攻は、薬学専攻の特性と社会的要請を考慮し 6 年制薬学卒業者を主な募集対象としますが、薬剤師資格を有する 24 歳以上の旧 4 年制薬学卒業者及び海外の薬学系又は理科系修士課程修了者も対象として国内外に人材を募ります。

薬科学専攻博士前期課程・後期課程

本専攻は、4 年制学部を基礎とする 2 年制博士前期課程と 3 年制博士後期課程から成り、創薬科学あるいは生命科学などの基盤的学術分野における高度な研究能力を有する薬科学研究者の養成を目的としています。また、医薬品開発全般を統括できる人材の育成も支援します。このため、薬科学関連の学術分野への研究志向をもち、知的好奇心に満ち柔軟な思考を有する創造力あふれる学生を求めます。

本専攻は、薬科学専攻の特性と社会的要請を考慮し、前期課程は他大学・他学部の卒業生あるいは社会人や留学生を主な募集対象とし、後期課程は薬学系又は理科系博士前期課程・修士課程修了生及び社会人や留学生も対象として国内外に人材を募ります。

(2) 大学院学生数の状況 (2017 年 5 月 1 日現在)

区 分		年 次	定 員	現 員	男(比率)	女(比率)
薬学専攻	博士	1 年次生	10	14	6	8
		2 年次生	10	14	7	7
		3 年次生	10	12	8	4
		4 年次生	10	10	8	2
薬科学 専 攻	博士前期	1 年次生	5	0	0	0
		2 年次生	5	1	1	0
	博士後期	1 年次生	2	1	0	1
		2 年次生	2	5	2	3
		3 年次生	2	2	1	1
計			56	59	33(55.9%)	26(44.1%)

(3) 大学院留学生の国別状況 (2017 年 5 月 1 日現在)

国	男	女	計
中国	3 (2)	0 (0)	3 (2)
タイ	1 (0)	0 (0)	1 (0)
バングラディッシュ	2 (1)	3 (2)	5 (3)
エジプト	0 (0)	1 (1)	1 (1)
合計	6 (3)	4 (3)	10 (6)

() 内は薬学専攻博士課程在籍者の内数

(4) 大学院学生数の推移 (2017 年 5 月 1 日現在)

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
収容定員	188	188	111	34	48	50	54	56	56	56
現員	208	234	134	42	42	38	43	45	56	59

(5) 大学院入学志願者数の推移

①薬学専攻博士課程 (4 年制)

年度	志願者数				合格者数				入学者数			
	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計
2018 年	8	1	—	9	8	1	—	9	8	1	—	9
2017 年	10	2	1	13	10	2	1	13	8	2	1	11
2016 年	7	8	3	18	6	8	3	17	6	8	3	17
2015 年	8	3	2	13	8	3	2	13	8	3	2	13
2014 年	5	4	0	9	5	4	0	9	5	4	0	9
2013 年	5	2	1	8	5	2	1	8	5	2	1	8

②薬科学専攻博士後期課程 (3 年制)

年度	志願者数				合格者数				入学者数			
	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計	夏季募集	冬季募集	秋季入学	計
2018 年	0	1	—	1	0	1	—	1	0	1	—	1
2017 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016 年	0	2	1	3	0	2	1	3	0	2	1	3
2015 年	0	4	2	6	0	4	2	6	0	4	2	6
2014 年	2	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0	2
2013 年	1	2	2	5	1	2	2	5	1	2	2	5

③薬科学専攻博士前期課程 (2 年制)

年度	志願者数	合格者数	入学者数
2018 年(二次募集)	1	1	1
2018 年	0	0	0
2017 年(二次募集)	1	0	0
2017 年	1	0	0
2016 年(二次募集)	1	1	1
2016 年	0	0	0
2015 年(二次募集)	0	0	0
2015 年	0	0	0
2014 年(二次募集)	2	2	2
2014 年	0	0	0
2013 年(二次募集)	1	1	1
2013 年	3	3	3

(6) 学位授与の状況 (2017 年度)

区 分	博士
大学院薬学研究科 薬学専攻	8
大学院薬学研究科 薬科学専攻	3

<参考>

課程によらない学位授与 (論文博士)

2017 年度 5 名

(7) 大学院学生就職・進路の状況（2018年3月修了者＜2018年3月31日時点＞）

①薬学専攻博士課程

区分	人数	割合(%)
製薬企業等	2	28.6
病院等	2	28.6
大学等	2	28.6
本学研究員	1	14.2
合計	7	100.0

②薬科学専攻博士前期課程

区分	人数	割合(%)
製薬企業等	1	100.0
合計	1	100.0

③薬科学専攻博士後期課程

区分	人数	割合(%)
大学等	2	100.0
合計	2	100.0

(8) 大学院学生の日本学術振興会特別研究員採用状況

区分	人数
DC1・DC2	2

(9) 大学院学生の就学支援（京都薬科大学奨学金他）

①京都薬科大学奨学金制度

制度の種類	対象者	金額	募集人数	選考方法
給付型奨学金	大学院新入生	入学年度の半期授業料相当	約3名	入学試験の成績、面接及び試問
	外国人留学生 (国費外国人留学生を除く)	月額3万円×12ヶ月	特になし	経済状況及び書類選考
授業料減免型奨学金	家計における経済的な事情により授業料の支払いが困難となった学生	半期授業料	約3名	家計状況により判断
私費外国人留学生授業料減免型奨学金	私費外国人留学生	半期授業料	特になし	経済状況及び書類選考
貸与型奨学金 (無利子貸与)	授業料の支払いが困難な学生	年額授業料の範囲内	学部生含め約10名	学業成績及び家計状況から判断

②2017年度の奨学金実績（人数・大学院新入生）

制度の種類	専攻・課程		学年				計
			1	2	3	4	
給付型奨学金	薬学専攻	博士課程	3	0	0	0	3
	薬科学専攻	博士前期課程	0	0	—	—	0
		博士後期課程	0	0	0	—	0
合計							3

③教育補助・研究補助業務に対する手当

制度の種類	課程・コース	従事手当の概要
ティーチング・アシスタント(T・A)	博士前期課程	年額6.6万円以内
リサーチ・アシスタント(R・A)	博士課程	年額120万円以内
	博士後期課程	

④2017年度の採用実績（人数）

制度の種類	学科・専攻	学年				計
		1	2	3	4	
ティーチング・アシスタント(T・A)	博士前期課程	0	1	—	—	1
リサーチ・アシスタント(R・A)	博士課程	11	13	9	8	46
	博士後期課程	0	2	3	—	
合計						47

<その他>

(1) 2017 年度の主な補助金の状況

①平成 29 年度私立大学等経常費補助金

区分	助成額(千円)
一般補助	329, 765
特別補助 (うち私立大学等改革総合支援事業 タイプ3 産業界・他大学等との連携)	98, 175 (8, 000)

②プロジェクト型研究助成補助金

制度	件数	助成額(千円)
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	3	37, 307
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」 養成プラン	1	10, 300

③科学研究費助成事業（科学研究費補助金／学術研究助成基金助成金）※1

制度	種目	区分	人数	助成額(千円)
科学研究費補助金	基盤研究(B)	新規	1	7, 670
		継続	2	7, 670
	研究活動スタート支援	継続	1	1, 430
	特別研究員奨励費	新規	3	3, 770
		継続	2	1, 315
学術研究助成基金助成金	基盤研究(C)	新規	6	9, 620
		継続	19	27, 820
	挑戦的研究（萌芽）	新規	1	3, 250
	挑戦的萌芽研究	継続	1	1, 430
	若手研究(B)	新規	3	6, 370
		継続	7	10, 270
合計	—	—	46	80, 615

※1： 2017 年度末時点で本学に在籍していた研究者が集計対象

2 事業の概要

(1) 第3期中期計画の策定

理事長、学長、事務局長から、創立150周年に向けた長期的ビジョンを描く「京都薬科大学マスタープラン」(P21 参照)が全職員に明示され、第3期中期計画策定委員会において、重点項目の検討を行った後、理事長及び学長との協議を経て、第3期中期計画(P22～P25 参照)を策定しました。

第3期中期計画は、第1章 先端的研究の展開と教育への反映、第2章 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ、第3章 磐石な経営・財務基盤の構築、第4章 教職協働による大学運営の4章で構成しています。また、2017年度から2021年度までの5年間のロードマップを示した第3期中期計画の重点項目とアクションプランを策定し、各推進担当課が中心となりアクションプランを実行しています。

なお、第3期中期計画の進捗状況の確認及び評価できるツールとして、中期計画進捗管理システムを導入しました。

2017年度中に成果を挙げた主な取組みは、以下のとおりです。

① 先端的研究の展開と教育への反映

・教育職員評価制度の導入に向けて

2020年度の教育職員評価制度導入を目指して、教育職員を中心としたワーキンググループを立ち上げ、評価制度の検討を実施しています。

・IPE 教育

昨年度に引続いて、IPE(他職種連携)教育の一環として、2017年12月22日に本学にて京都橘大学看護学部と合同でIPE教育研修を実施しました。

・がん専門医療人材

文部科学省の補助事業である、多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランに採択されました。採択期間は、2017年度から2021年度の5年間です。

・統合薬科学系の新設の決定

学内共同研究の推進のために統合薬科学系を新設したことにより、今後、がん、iPS、画像解析などの学内共同研究を展開します。

② 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ

・学生チャレンジ事業、学内ジョブ制度の創設

学生の薬学分野に限らない様々な領域における自主的なチャレンジを応援することを目的とした学生チャレンジ事業を実施し、その活動に対する補助金を支給しました。また、学生に正課外で活躍できる場を提供することを目的に学内ジョブ制度を創設しました。ボランティア活動やアルバイト情報(通学マナー啓発スタッフ、KPUエコプロジェクトスタッフなど)を発信し、多くの学生が参加しました。

・「manaba」導入

講義や掲示板等をはじめとした様々な教育の場で活用できる新LMS(ラーニングマネジメントシステム)「manaba」導入のための準備を2017年度中に進め、2018年度から運用を開始します。

③ 磐石な経営・財務基盤の構築

・資産の委託運用

安全かつ効率的な資産運用を実現することを目的に、外部コンサルティングを活用し資産運用委員会で検討を行った結果、2018年度から委託運用を開始することが決定しました。

・薬剤師認定制度認証機構(CPC)認証

薬剤師リカレントの推進を図るべき、生涯教育センターが実施している卒後教育プログラムを公益財団法人薬剤師認定制度認証機構(CPC)に申請し、認証決定を受けました。2018年度からは同センターの提供するプログラムが、薬剤師研修制度の一環として開講できるようになりました。

④ 教職協働による大学運営

- ・学内公衆無線 LAN (Free Wi-Fi) の設置

学生の利便性及び教育の質向上を目指して、学生が講義室及び分野等において、無線ネットワークが利用できるようにするため、学内公衆無線 LAN (Free Wi-Fi) を設置しました。2018 年 4 月から本格的に開始します。

- ・2025 委員会の設置

京薬ブランドを高める広報活動として、本学をより社会に認知してもらうことを目標に、戦略的な広報活動を検討するための委員会（2025 委員会）を新設しました。今後、本委員会が中心となり、広報戦略の策定に向けて活動を行っていきます。

- ・SD の協同研修に関する協定締結

2017 年 7 月 1 日に本学、大阪薬科大学、神戸薬科大学は、大学の運営に必要な知識及び技能を身に付けその能力を向上させる研修を協同実施するために協定を締結しました。

【2017 年度主な職員研修実施一覧】

開催日	研修内容	参加者数
2017 年 6 月 14 日	時事研修 (AI)	97 名
2017 年 8 月 28 日	三葉科大学 SD 協同研修	11 名
2017 年 8 月 23 日	ハラスメント研修	124 名
2017 年 9 月 4 日	メンタルヘルス研修 (管理監督者向け)	33 名
2017 年 11 月 6 日	管理職研修	11 名
2017 年 12 月 4 日	危機管理研修	118 名
2018 年 2 月 20 日・3 月 23 日	中堅職員研修	20 名
2018 年 2 月 23 日	本学の教育のあり方に関する勉強会	97 名
2018 年 3 月 1 日	学生との関わり方勉強会	121 名

(2) 役員の改選及び理事長の選任並びに評議員の改選

2017 年 5 月 29 日で役員（理事及び監事）の任期が満了したため、翌 5 月 30 日付で理事 11 名及び監事 2 名が新たに選任しました。任期は、2017 年 5 月 30 日から 2020 年 5 月 29 日までの 3 年間です。

また、2017 年 5 月 30 日に開催した理事会において、土屋勝理事を理事長に選任しました。土屋理事長は、2008 年 5 月から理事を務め、2010 年 4 月から常任理事の要職を担い、第 2 期中期計画策定委員長として本学の運営に深く携わってきました。

なお、評議員についても 2017 年 5 月 15 日で任期が満了したため、翌 5 月 16 日付で評議員 32 名を新たに選任しました。任期は、2017 年 5 月 16 日から 2020 年 5 月 15 日までの 3 年間です。

(3) グローバル人材の育成

- ・英語による卒業論文発表会の実施

グローバル化の進展に伴い、2013 年度から卒業論文発表会のポスター作成・発表・質疑応答を英語で実施しています。2017 年度の卒業論文発表会には、国際学術交流協定を締結（次頁一覧参照）している大学から招待者（8 校 25 名）が参加し、英語で活発な意見交換を繰り広げ、活気ある発表会となりました。

- ・MCPHS 大学及びフライブルク大学のサマープログラム実施

MCPHS 大学のサマープログラムは、2017 年 8 月 3 日から 16 日に実施され、2、3 年次生の男女 15 名及び引率者 3 名（教育職員 2 名、事務職員 1 名）が参加しました。フライブルク大学のサマープログラムは、2017 年 8 月 3 日から 25 日に実施され、2、3 年次生の男女 10 名及び引率者 3 名（教育職員 2 名、事務職員 1 名）が参加しました。MCPHS 大学及びフライブルク大学のサマープログラムの学生参加者へは奨学金を支給しました。また、2017 年 11 月 5 日開催のホームカミングデーでは、両大学にサマープログラムに参加した学生 3 名ずつが成果報告プレゼンテーションを行いました。

・国際学術交流協定の締結

本学とハノイ薬科大学（ベトナム）は、2017 年 6 月 26 日に学術交流協定を締結しました。両大学は今後、学生交流および研究交流を行う予定です。

【本学との国際学術交流協定校一覧】

大学名	国名	締結年度
瀋陽薬科大学	中国	2005
マヒドール大学	タイ	2012
アレキサンドリア大学	エジプト	2013
国立台湾大学	台湾	2015
MCPHS 大学	米国	2015
カリフォルニア大学サンフランシスコ校	米国	2015
国立成功大学	台湾	2015
ハノイ薬科大学	ベトナム	2017

【京都 4 大学との国際学術交流協定】

大学名	協定先	国名	締結年度
京都 4 大学 〔本学、京都工芸繊維大学、 京都府立医科大学、京都府立大学〕	CRUI※ (イタリア学長会議) 39 大学	イタリア	2017

※The Conference of Italian University Rectors

(4) 地域連携への取組み

・リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 京都の開催協力

2017 年 9 月 30 日（土）16 時から 10 月 1 日（日）9 時まで、がん征圧・患者支援チャリティーイベントとして、リレー・フォー・ライフ・ジャパン主催のもと、本イベントが本学中央庭園にて開催されました。本イベントは、がん患者さんやご家族、その支援者の皆さんが交代でタスキをつなぎながら夜を徹して歩く夜通しウォークや様々な企画を通じて、がん征圧への願い、絆を深めることを目的とされています。京都府では、2011 年に 1 回目のイベントが開催され今年度 6 回目を迎えました。本学では、がん治療薬、がん薬物療法など、がんに関する研究活動を行っていることから、本イベントの趣旨に賛同し、会場・施設の提供と学生ボランティアの運営参加に協力しています。

・理科実験講座の開催

学生実習支援センターは、市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会』と共に小学生を対象とした理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2017 イン山科」を開催しました。2017 年度の理科実験講座は、7 月 30 日に開催し山科地区の児童 124 名が午前と午後の部に分かれ参加しました。なお、本講座は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施している「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施しました。

・薬物乱用防止教室の開催

基礎演習（1 年次科目）での学外活動の一環として、2017 年 10 月 11 日に地域の小学校に訪問し、小学 3 年生及び小学 6 年生を対象に薬物乱用防止教室を開催しました。

・科学実験教室「こどもランド」の開催

2017 年 11 月 4 日・5 日に本学の学園祭「京薬祭」において、近隣の幼稚園の園児を対象とした簡単のできる科学実験教室「こどもランド」を開催しました。本イベントは、2012 年から京薬祭実行委員が主催となり、小さな子供から大人まで安全かつ手軽に楽しめる実験を学生が中心となって考案し、毎年多くの方が参加しています。

・その他地域貢献（公開講座・文化講演会）

2017 年 10 月 21 日に第 23 回公開講座を開催し、本学教員による講演及び薬用植物園御陵園の見学会を実施しました。また、2017 年 11 月 4 日に本学「京薬論集刊行会」主催のもと、第 15 回文化講演会を開催しました。

(5) 研究活動実績

・シンポジウム等の開催

2017 年度は、本学主催の第 8 回 KPU シンポジウム、多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランによるセミナー、市民公開講座、KPU-OHP 臨床医薬カンファレンスなど多くのシンポジウム等（次頁一覧参照）を企画し開催しました。

・若手教員及び大学院生の学会等における受賞

若手教員や大学院生が国内外の学会等で合計 22 の賞を受賞するなど積極的に研究成果を発表し、高い評価を得ています。

【シンポジウム等実施一覧】

名 称	開 催 日
第 8 回 KPU シンポジウム	2017 年 5 月 2 日
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	
バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立 ー成果発表会ー	2017 年 5 月 20 日
新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 2017 年度 Annual Meeting	2017 年 9 月 1 日
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン	
「医薬品評価科学特論」公開講座	2017 年 7 月 20 日
「創薬腫瘍科学特論」特別講義	2017 年 7 月 21 日
がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	2018 年 1 月 28 日
市民公開講座「前立腺がん」	2018 年 2 月 24 日
創薬科学フロンティア研究センター講演会	2018 年 2 月 16 日
KPU-OHP 臨床医薬カンファレンス	第 6 回 2017 年 6 月 16 日 第 7 回 2017 年 11 月 17 日

(6) 競争的資金の獲得状況

・科学研究費補助金

2017 年度科学研究費助成事業については、新規及び前年度からの継続分を合わせると、合計採択件数は、46 件、交付総額は 80,615 千円でした。（2017 年度末時点で本学に在籍していた研究者が集計対象）。また、科学研究費助成事業の学内説明会を 2017 年 9 月 14 日に開催しました。

・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

前年度からの継続分 3 件（代表者：松田久司教授「優良和薬の確保・供給のための研究」、代表者：芦原英司教授「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」、代表者：加藤伸一教授「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」）の合計 3 件（37,307 千円）を外部資金として獲得しています。

・私立大学等改革総合支援事業

タイプ 3 「産業界・他大学等との連携」に採択され、8,000 千円を獲得しています。

・その他の補助金

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランに採択され、10,300 千円の外部資金を獲得しています。

(7) 広報活動の推進

・大学広報の充実

KPUNews、大学案内等の広報誌を通じて、大学の情報を発信しつつ、また、ホームページやSNS（LINE）を通じて最新の大学情報を積極的に学内外に向けて発信しています。

・広告看板の設置

学外への広報活動として、大学の知名度向上及び志願者獲得を目的に、これまで JR 山科駅（2 カ所）、JR 大阪駅、JR 京都駅、地下鉄山科駅及び JR 東京駅構内に広告看板を設置しました。

・入試広報活動の充実

ホームページの受験生サイトを全面リニューアルし、受験生向けに特化した各種情報（入試、オープンキャンパスなど）を積極的に発信しています。入試広報活動として、指定校訪問、高校訪問、高校での講演及び模擬講義、新聞社などが主催する進学相談会、雑誌や新聞への広告掲載等を行っています。また、毎年、春、夏、秋にオープンキャンパスを開催し、大学紹介、施設見学、体験実習、相談会等を実施し、参加者が 2,000 名を超えています。（下記参加者数一覧参照）

【オープンキャンパス参加者数一覧】

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 度	2017 度
参加者数	2,259 名	2,442 名	2,609 名	2,775 名	2,499 名

(8) 第 103 回薬剤師国家試験の結果

2018 年 2 月 24 日及び 25 日に、第 103 回薬剤師国家試験が実施されました。3 月 27 日に合格発表があり、本学の実績は、新卒者と既卒者（旧 4 年制を含む）を合わせた合格率 86.10%（出願者 408 名、受験者 374 名、合格者 322 名）、新卒者合格率 89.55%（出願者 363 名、受験者 335 名、合格者 300 名）、既卒者合格率 64.71%（出願者 35 名、受験者 34 名、合格者 22 名）でした。全国平均は、新卒者と既卒者の総数の合格率が 70.58%、新卒者合格率が 84.87%、既卒合格者が 47.00%でした。（P9 参照）

【薬剤師国家試験に向けた基本方針】

対象年次	基本方針
	1. 薬学に関する基礎から実践まで、段階的に講義・演習・試験を行う 2. 基礎系科目を中心とした演習による学力強化およびきめ細やかな学修支援 3. 自己学修ができる環境整備（教材データベース、必須問題データベース等）
4 年次生	実務実習に向けた知識の整理と統合的理解（薬学総合演習）
5 年次生	4 年次までの学修内容と実務実習内容との統合（実務実習）
6 年次生	実務実習の振り返りおよび薬学の総まとめ（前期：薬学演習；後期：アドバンスト薬学）

京都薬科大学 マスタープラン 創立 150 周年への飛躍

- 先端的な研究に支えられた「ファーマシスト・サイエンティスト」育成のために -
（「薬学のプロフェッショナルの育成」「先端的で高度な研究を行う大学」）

新時代の“京薬ブランド”の確立

京都薬科大学マスタープランは、来るべき本学の創立 150 周年に向けて、「先端的な研究に支えられ、建学の精神に根差したファーマシスト・サイエンティストの育成を追究する大学（京薬ブランド）」への新展開を目指すものであり、以下の3つの項目の推進によって達成する。

本プランは、具体的には「中期計画」等により推進される。第1期中期計画(躬行プラン)及び第2期中期計画の実行によって、**Science** (科学)、**Art** (技術)、**Humanity** (人間性)のバランスのとれたファーマシスト・サイエンティストの育成のための教育・研究体制を確立することができた。第3期中期計画では、6年制薬学の更なる発展に尽くすとともに、これまでの成果を“京薬ブランド”として実質化することを目的として取り組むものである。

1. 先端的研究の展開と教育への反映

社会環境の急速で劇的な変化は、従来のように、素直に修行することによって、生涯が保証される時代から、常に新しいことを吸収し、表現することが求められる時代に変貌させた。この時代を生き抜く力を身につけた人材を輩出することが大学教育の役割の一つである。この人材の輩出のためには、膨大な知識や技術を円滑に吸収・消化できる「科学的思考を軸とした教育体系の確立」が必須である。この確立を目指して、先端的な研究を推進し、科学体系をもとにした教育を展開することで、科学的思考能力を備え薬学の発展に貢献する意欲に溢れた学生を育成・輩出する。

2. 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ

薬学領域を含めた大学の淘汰は目前に迫りつつある。本学には、到来する逆風でさえ推進力に変え、日本の医療界を支える人材を輩出し続ける歴史と伝統に裏打ちされた「教育力」、「財政力」、「信用力」が備わっている。これらの地力をもとに、建学の精神を基軸として、幾多の環境変化に適応しつつも、不易を守り、社会のニーズや学生のニーズに対応して、薬学領域のみならず、広い領域で活躍し、将来、各界のリーダーとなるべき「発展的なファーマシスト・サイエンティスト」の育成を行う世界展開を視野に入れた大学への発展をめざす。

3. 盤石な経営・財政基盤と教職協働による大学運営

我が国の経済状態に鑑み、国庫補助の増額を含めた収益増加を見込むことは困難である。この状況を踏まえると、持続的且つ安定的な経営及び新たな財政基盤の整備が必要である。そのために、教育職員及び事務職員の教職協働並びに学生の積極的な参加を得て、社会をはじめ多様なステークホルダーへ、大学の学術資源を還元する体制を拡充する。これによって、本学の存在価値を高め、社会から愛され、必要とされる大学となることで盤石な基盤強化につなげる。

京都薬科大学では、薬系大学が乱立する時勢にあつて、本学に求められる社会的要請と取り巻く環境変化に適切に対応するため、中期計画を策定し推進している。この中期計画は、自らのあるべき姿を恒常的に見直すことや、長所は伸ばし短所は改善する等、本学の魅力をより引き出すことに大きく寄与している。また、全職員が中期計画を共通認識することで、それぞれの立場で意欲的に大学運営に参画できる体制となっている。

これまで「第1期中期計画（躬行プラン）」（2007年～2011年）及び「第2期中期計画」（2012年～2016年）により、目標達成のための推進項目を設定し、2期10年にわたって改革・改善を行ってきた。第1期では「組織・制度改革」に、第2期では「制度運用と施設整備」に主眼を置いて推進してきた。もとより本学では、建学の精神「愛学躬行」を基軸に教育研究の追究を通じて人材養成に臨んでいるが、とりわけ研究活動を通じた教育の充実による次世代のリーダーとなる人材育成を目指して第3期中期計画策定に当たることとした。

策定にあたっては、理事長・学長・事務局長の三者会談により、「薬学のプロフェッショナルの育成」と「先端的で高度な研究を行う大学」という2つのビジョンが掲げられ、これらを推進するためのキーワードとして「全学をあげた教育職員と事務職員の“共同”と“協働”」が明示された。さらに、創立150周年に向けた長期的ビジョンを描く「京都薬科大学 マスタープラン」が理事長・学長・事務局長により策定され、全職員に示された。また、全職員参加の「ワールド・カフェ」を開催し、ビジョン達成のための意見集約を行った。マスタープラン及びワールド・カフェで得られた意見をもとに、第3期中期計画策定委員会において重点項目が検討され、理事長及び学長との協議を経て第3期中期計画（案）が立案された。

第3期中期計画は、各アクション・プランを策定しこれを主導する担当課及び適切な推進担当者を選任して推進するとともに進捗を管理する。年度毎の進捗状況を「中期計画推進調整会議（仮称）」にて確認したうえで次年度の計画を策定し、各アクション・プランの有機的なつながりを企図して「教職協働」を共通理念として推進に当たる。

第1章 先端的研究の展開と教育への反映

1 科学的思考を育む教育研究能力の向上

(1) 教育職員評価制度の導入

先端的研究の展開と教育への反映を掲げ、科学的思考を軸とした教育体系の確立を目指す本学において、教員が現状に甘んじることなく、研究能力や教育能力をさらに高めるための行動とその成果が公正に評価される仕組みが必要であり、こうした評価制度を、2020年度を目処に導入する。また、評価制度の導入のみにとどまらず、他機関との人事交流等を通じ、大学教員として必要なスキルを身に付ける取り組みと合わせて、教員一人一人が意識改革に取り組み、個々の能力を向上させていく。

(2) 京薬発の共同研究プロジェクトの推進

これまで伝統的に取り組んできた研究活動について、「研究の京薬」としてブランド化することは、大学の価値向上につながるため、再生医療や創薬の分野等、国内外の先端的な研究に触れるだけでなく、他大学・他分野・他機関と連携するなど、本学の独自性を打ち出すことができる“京薬発”の先端的研究を指向し、全学的な研究実施体制および研究支援体制で推進する。

(3) 臨床を意識した教育研究の推進

2006年から2015年までは、6年制薬学教育の導入から構築・整備に注力した10年間であった。2016年からは次のステージへの展開として、臨床教育研究へのさらなる取り組みを促し、6年制薬学教育の発展に向けた体制の構築が必要であり、具体的には、教員の臨床への意識改革や、臨床経験獲得機会の拡充に向けた施策を推進する。

2 教育研究環境の向上

(1) 多様化する社会に応じた教育研究体制の構築

18歳人口の減少、大学のユニバーサル化等により、学力や個性を含めて学生は多様化し、社会からの要請もまた多様化、複雑化しており、本学の教育目的を実現し、医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出するため、幅広い視野と人脈を備えた教員による画一的な教育にとどまらない教育研究体制を構築する。

(2) 優れた研究者の発掘と育成

将来、本学を象徴するような研究者を育てることは、本学の教育活動に画期的な変革を生むと考えられ、優れた未来の研究者を発掘・育成するため、研究者を目指す学生が研究意欲を持続けられるよう、研究に専念できる環境を整える。また、次世代の6年制薬学教育を担う人材輩出のため、大学院教育において、社会から求められる資質としての臨床マインドを醸成し、患者視点に立って研究活動に打ち込める環境を整備する。

(3) 先端的研究者養成コースと先端的研究施設の構想化

優れた研究者の発掘と育成を行う方策が具体化すれば、発掘した人材を先端的研究者として養成するコースや、先端的研究に従事するための研究施設が必要であり、本学が研究者に求める必要な資質、要件等を検討し、目的に見合った先端的研究者養成コース及び研究施設の構想化を図る。

第2章 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ

1 自立性・社会性・豊かな教養を育む教育

(1) 3つのポリシーを実現する入試制度改革・カリキュラム改革

学部及び大学院の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー）については、一体性を考慮し策定（2017年4月1日改正）されているところ、今後は、これらのポリシーを実質化するため、本学が求める人材の具体像（ファーマシスト・サイエンティスト）を念頭に、ポリシーに整合性のとれた入学試験制度改革、カリキュラム改革等を実施する。

(2) ファーマシスト・サイエンティストを育む教育研究体制の整備

多様な領域で活躍できる薬学のプロフェッショナルを輩出するには、国家試験合格は当然のこととして、薬学教育モデル・コアカリキュラムには留まらない本学独自の教育支援が必要であり、教育理念及び教育目的に基づき、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた薬剤師であるファーマシスト・サイエンティストを育成するための教育研究体制の充実を図る。

(3) Humanityを育む教育の実施

6年制薬学教育が、「クスリ（物質）」から「患者（ヒト）」中心の学問体系へとシフトしたことから、薬学教育におけるHumanity（人間性）の涵養は必要不可欠であり、教育目的に掲げる「高い倫理観を伴う人間性」を育むための教育を初年次（1・2年次）から卒業時まで一貫して行い、5年次における薬学実務実習においてもその効果が期待できるような教育を行う。

2 自立性・社会性・リーダーとしての素養を育む学生支援

(1) 学生の自立性を高める支援プログラムの機能強化

マスタープランにも示したとおり、医療界の各領域でリーダーとなるためには、薬学領域のみに囚われない広い視野を持ち、自ら課題を発見し、周囲の協力を得て課題を解決する能力が必要であり、第2期中期計画では「自立した学生の育成」において学生支援を推進してきたが、第3期中期計画では、学生相談員制度及び分野・センターでの活動を支える教員そのものの相談制度等、間接的に学生の自立性の向上に寄与する施策についても取り組みを行う。また、学生の自立性を高める各種支援プログラムについて、新規制度はもとより既存制度を含めて検討し機能強化を行う。

(2) 学生の社会性を高めるためのプログラムの充実

学生の自立性の向上と同様、学生の社会性の向上も、リーダー養成には不可欠な要素であり、ICT技術の進展や家庭環境の変化等により、コミュニケーションの在り方が多様化する時勢を鑑み、限定的なコミュニティでの交流にとどまらず、多種多様な交流機会や他者との直接的なコミュニケーションの機会を拡げるため、地域貢献、国際交流等を通して、学生が社会と積極的に関わることができる環境づくりを含め、社会性や社会人基礎力を育むプログラムの充実を図る。

(3) 学生が希望する進路への就職支援体制の充実

本学の進路（就職）については、「製薬企業30%、病院30%、薬局30%」という特徴がある。これは、本学の卒業生により営々と築かれてきた伝統の賜物であり、学生には、本人の努力次第ではあるが、広い進路の選択機会が用意されているところ、今後も幅広い進路の選択機会の維持はもとより、早期の離職や転身等の原因の調査分析を進め、学生が希望する進路に進めるように支援の仕組みとサポート体制をさらに充実させ、リーダー養成に必要なキャリア支援についても検討する。

第3章 盤石な経営・財務基盤の構築

1 持続的且つ安定的な経営及び新たな財務基盤の整備

(1) 安全・効率的な資産運用の実現

本学の事業収入に占める学生納付金の比率は約80%（2015年度実績）で、非常に高い比率となっており、今後、18歳人口の減少等により収容定員の見直し等を余儀なくされ、大学淘汰の時代に晒されることとなる状況に鑑み、学生納付金に大きく依存する現状の収入構造を見直し、学生納付金、外部資金、寄附金等、多様な収入による持続的且つ安定的な財務基盤の整備を行う。また、昨今の金融政策を考慮し、大学の資産を安全有効且つ確実に運用できる手法を検討し、大学経営に有利な財務体制をも実現する。

(2) 教育研究等の充実・発展を目的とした寄附事業の推進

海外の大学では、大学経営における寄附事業の推進が定着しており、日本国内でも寄附事業に注力する大学が増加しつつあるところ、本学においても、京薬会と連携する等、組織的に寄附事業を推進する。マスタープランに示した150周年に向けた取り組みについて効果的な広報を行い、卒業生をはじめ、広く社会に大学の目指す教育研究についての理解を得ながら、学生の奨学金と周年事業以外にも寄附事業を展開する。

(3) 教育研究活動の活性化を促す支援制度の構築

京都薬科大学科学振興基金をはじめとして、学内の教育研究活動を支援する制度は種々実施しているが、これまで実施してきた支援制度の効果の検証を行うとともに、本学の目指す教育研究活動のさらなる活性化が期待できる支援体制を検討し構築する。

2 大学が有する学術資源の社会への還元及びブランド構築

(1) 教育研究の向上に資する質保証システムの構築と社会連携

公益財団法人大学基準協会の機関認証評価の基準においては、内部質保証システムの構築が求められており、本システムの構築により、本学の教育研究に関するPDCAサイクルを確立することは、教育研究の質的向上に大いに寄与する。具体的には、2016年度に常設された「自己点検・評価運営委員会」の組織的運用、的確なステークホルダーへの意見聴取や外部評価等が考えられる。また、知識基盤型社会の進展に伴い、教育研究の成果として得られた学術資源を、学内のみにとどめるのではなく、地域を含めた社会に広く還元することにより、社会から必要とされる大学として、その地位を確立する。

(2) 薬剤師リカレントと地域貢献の推進

生涯教育社会における大学の使命は、在学生の教育のみならず、社会において活躍する薬剤師等の卒業生の支援・質的保証も大きな役割である。本学が輩出する人材は、地域医療への貢献をはじめ、公共の福祉に貢献する大学として、その存在価値を確立しなければならず、そのため、「薬剤師リカレント」をはじめ、薬剤師の能力向上や学び直しの機会を提供する施策を推進する。

(3) IR (Institutional Research) を活用した教育改革とブランド構築

大学IR (Institutional Research) が広く普及し、各種データの分析結果をエビデンスとした教育・研究改革及び大学経営改革が行われている中、本学でもIR委員会（準備委員会）が設置されているが、組織的な運用には至っていないため、本学におけるIR機能確立し、現状の本学のイメージや認知度の把握・分析をはじめとするIRによる効果的な教育・研究改革及び大学経営と、本学のブランド構築（長所の伸長及び短所の克服）を行い、PDCAサイクルを連携させて取り組む。

第4章 教職協働による大学運営

1 大学の機能強化と業務改善

(1) リスクマネジメントと業務運営の効率化

劇的且つ瞬間的に価値観の転換が起こる先行き不透明な現代において、将来を見据えた「リスクマネジメント」があらゆる業態において必須の課題となっている中、大学を取り巻く環境変化も常に変化しており、危機事象に対する初動対応の失敗が、大学の価値を著しく減失することにつながりかねないため、リスクマネジメントを大学運営に有効活用する体制を整備する。また、リスク発生時の危機管理についても万全の体制を構築し、大学の機能強化に伴い設置される新規委員会と既存委員会との担当領域等の調整や運営方法の見直しを行うなど、各種業務運営の効率化を図る。

(2) 教育効果を高める実務実習体制の確立

関西地区では調整機構による薬学実務実習の調整が行われ、全国的にも安定的な運営が行われているところ、本学は、多くの実習学生が存在するにもかかわらず、固有の実習機関（附属病院・附属薬局）を有しないことから、種々の環境変化により、実習の運営において不利益を受ける可能性は否定できない。このような状況に鑑み、今後実習の質的向上に資するよう、関係各種機関との連携等を模索し、現状の枠組みに囚われない実習体制を検討し確立する。

(3) 効率的かつ強靱な一元的情報管理基盤の整備

近年、大学をターゲットとした情報セキュリティ事案が頻発しているが、本学においても 2017 年 4 月 1 日付けで「京都薬科大学 情報セキュリティポリシー」を制定したところであり、大学のセキュリティ向上はもとより、学術系、事務系及び図書館系情報基盤の一元的な管理により、効率的且つ強靱な情報管理基盤を整備する。

2 その他の重要目標

(1) 大学の発展につながる SD 活動の充実と事務職員の高度化

大学設置基準の改正により、2017 年度から、大学の事務職員及び教育職員を対象として SD（Staff Development）が義務化され、その指針において SD・FD の場や機会を峻別せず、目的に応じて柔軟な取り組みをしていくことが望まれているところ、本学の第 3 期中期計画では、2016 年 7 月 1 日付けで制定した「京都薬科大学 SD 実施方針」及び「京都薬科大学 SD 推進委員会要綱」に沿い、SD 実施計画を着実に実行する。また、大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化する中、教職協働を一層強化し、教育・経営等様々な面で積極的な参画を図っていけるよう、事務職員の高度化及び事務組織の強化に取り組む。

(2) マスタープラン実現のための施策の策定

創立 150 周年のあるべき姿を描いた「京都薬科大学 創立 150 周年への飛躍」で策定されたマスタープランの達成のため、今後の 15 年間は、大学を取り巻く環境変化を予測しつつ、その達成に必要な施設設備計画の策定及び人事計画の策定を基にしてシミュレーションを行い、財務計画を立て、全職員が積極的に意見交換できる場を企画・実施することで、教職協働による大学運営を推進する。

(3) 京薬ブランドを高める広報活動

本学の建学精神及び研究活動に根差した教育を展開していることを広く社会一般に周知し、研究に強い大学というイメージを社会に浸透させることは、学生募集、産学連携に大きな強みとなることから、大学の諸活動から得られた教育研究成果を効果的に広報するため、IR 等を活用し、分かりやすく情報公開することにより、大学関係者の帰属意識を向上させ、大学と社会との良好な関係を構築する。

4 財務の概要

(1) 発行体格付け（旧長期優先債務格付け）

AA-（ダブルA マイナス） 方向性 安定的

本学は2004年8月R&I（株）格付け投資情報センター）より上記格付けを取得。

2017年度も格付けを更新し引続きAA-を維持しました。

「AA-」は、21段階（AAA～D）に区分されている格付順位の上から4番目です。

(2) 財務概要経年比較

表1. 事業活動収支

(単位:千円)

科目	2013年度	2014年度
学生生徒等納付金	4,266,754	4,368,600
手数料	105,904	96,641
寄付金	87,730	29,661
補助金	450,918	530,174
資産運用収入	155,951	172,954
資産売却差額	50,640	79,885
事業収入	35,932	42,116
雑収入	113,682	94,401
帰属収入合計	5,267,513	5,414,435
基本金組入額合計	△ 1,695,427	△ 1,608,275
消費収入の部合計	3,572,086	3,806,159
人件費	1,753,009	1,755,504
教育研究経費	1,893,519	2,074,252
管理経費	337,469	359,186
資産処分差額	183,416	131,168
徴収不能引当金繰入額	0	4,175
消費支出の部合計	4,167,414	4,324,287
当年度消費収支差額	△ 595,328	△ 518,128
前年度繰越消費収支差額	1,486,414	891,085
基本金取崩額	0	0
翌年度繰越消費収支差額	891,085	372,957

(2013～2014年度会計基準改正前)

科目	2015年度	2016年度	2017年度
学生生徒等納付金	4,298,150	4,244,977	4,223,815
手数料	88,067	89,671	87,127
寄付金	37,308	35,118	44,087
経常費等補助金	483,173	457,977	439,367
付随事業収入	40,514	41,214	15,552
雑収入	152,056	47,199	57,493
教育活動収入計	5,099,270	4,916,158	4,867,443
人件費	1,860,228	1,792,767	1,842,911
教育研究経費	2,002,046	2,050,825	2,084,527
管理経費	365,115	392,078	419,962
徴収不能額等	0	0	1,000
教育活動支出計	4,227,390	4,235,670	4,348,401
教育活動収支差額	871,880	680,487	519,042
受取利息・配当金	174,880	170,426	171,886
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	174,880	170,426	171,886
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	174,880	170,426	171,886
経常収支差額	1,046,760	850,914	690,929
資産売却差額	50,088	0	0
その他の特別収入	119,168	27,325	11,059
特別収入計	169,256	27,325	11,059
資産処分差額	14,123	95,115	66,776
その他の特別支出	8,987	132	2,797
特別支出計	23,110	95,247	69,573
特別収支差額	146,146	△67,922	△58,514
基本金組入前当年度収支差額	1,192,906	782,992	632,415
基本金組入額合計	△ 845,523	△ 620,105	△535,585
当年度収支差額	347,382	162,886	96,830
前年度繰越収支差額	372,957	720,339	883,226
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	720,339	883,226	980,056

(参考)

事業活動収入計	5,443,407	5,113,910	5,050,390
事業活動支出計	4,250,500	4,330,918	4,417,975

表 2. 貸借対照表

(単位：千円)

科目 () は 2013～2014 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
固定資産	29,594,789	30,447,155	30,985,052	31,712,208	32,009,110
流動資産	2,278,331	2,471,954	3,122,619	3,143,758	3,609,536
資産の部合計	31,873,120	32,919,110	34,107,671	34,855,967	35,618,647
固定負債	911,468	914,948	911,067	900,578	890,691
流動負債	817,890	770,251	769,787	745,579	885,731
負債の部合計	1,729,358	1,685,200	1,680,854	1,646,158	1,776,422
基本金 (基本金の部合計)	29,252,677	30,860,952	31,706,476	32,326,582	32,862,167
繰越収支差額 (消費収支差額の部合計)	891,085	372,957	720,339	883,226	980,056
純資産の部合計			32,426,816	33,209,809	33,842,224
負債及び純資産の部合計	31,873,120	32,919,110	34,107,671	34,855,967	35,618,647

(2013～2014 年度は会計基準改正前)

(3) 財務指標経年比較

(単位：%)

区分	比率 ()は2013～2014年度	計算式		2013	2014	2015	2016	2017	※
		2013～2014年度	2015～2017年度	年度	年度	年度	年度	年度	
事業活動収支関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	33.3	32.4	35.3	35.2	36.6	39.5
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	41.1	40.2	43.3	42.2	43.6	47.5
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	35.9	38.3	38.0	40.3	41.4	39.0
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.4	6.6	6.9	7.7	8.3	8.6
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	事業活動収支差額比率 (帰属収支差額比率)	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	20.9	20.1	21.9	15.3	12.5	10.7
	基本金組入後収支比率 (消費収支比率)	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	116.7	113.6	92.4	96.4	97.9	103.0
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.0	80.7	81.5	83.5	83.8	83.3
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.7	0.5	2.1	0.9	1.1	1.0
	経常寄付金比率		$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$			0.7	0.7	0.9	0.8
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	8.6	9.8	9.7	9.2	8.7	7.9
	経常補助金比率		$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$			9.2	9.0	8.7	7.7
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	32.2	29.7	15.5	12.1	10.6	13.3
	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	19.1	20.6	19.7	20.8	20.4	16.1
	経常収支差額比率		$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$			19.8	16.7	13.7	12.6
	教育活動収支差額比率		$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$			17.1	13.8	10.7	11.5
貸借対照表関係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	92.9	92.5	90.8	91.0	89.9	93.2
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	7.1	7.5	9.2	9.0	10.1	6.8
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{固定負債}}{(\text{総負債}+\text{純資産})}$	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5	4.1
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{流動負債}}{(\text{総負債}+\text{純資産})}$	2.6	2.3	2.3	2.1	2.5	2.3
	内部留保資産比率	$\frac{(\text{運用資産}-\text{総負債})}{\text{総資金}}$	$\frac{(\text{運用資産}-\text{総負債})}{\text{総資産}}$	48.5	51.1	48.8	52.4	55.1	36.6
	運用資産余裕比率(年)	$\frac{(\text{運用資産}-\text{外部負債})}{\text{消費支出}}$	$\frac{(\text{運用資産}-\text{外部負債})}{\text{経常支出}}$	4.1	4.2	4.3	4.7	4.9	3.3
	純資産構成比率 (自己資金構成比率)	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{純資産}}{(\text{総負債}+\text{純資産})}$	94.6	94.9	95.1	95.3	95.0	93.5
	繰越収支差額構成比率 (消費収支差額構成比率)	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{繰越収支差額}}{(\text{総負債}+\text{純資産})}$	2.8	1.1	2.1	2.5	2.8	△ 2.2
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	98.2	97.5	95.6	95.5	94.6	99.7
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{(\text{自己資金}+\text{固定負債})}$	$\frac{\text{固定資産}}{(\text{純資産}+\text{固定負債})}$	95.3	94.7	92.9	93.0	92.2	95.5
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	278.6	320.9	405.6	421.7	407.5	289.9
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	5.4	5.1	4.9	4.7	5.0	6.5
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	5.7	5.4	5.2	5.0	5.2	6.9
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	344.3	380.4	495.2	533.0	572.3	396.3
	退職給与引当特定資産保有率 (退職給与引当預金率)	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	80.7
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.8	99.8	99.9	100.0	99.9	98.8
	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	41.1	43.9	43.2	45.9	48.8	51.0
	積立率		$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$			108.5	110.4	111.5	100.4

(2013～2014年度は会計基準改正前)

※2016年度の薬系単科大学の平均値

(4) 財産目録

(単位：千円)

項 目	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
I. 資産の部	31,873,120	32,919,110	34,107,671	34,855,967	35,618,647
i. 固定資産	29,594,789	30,447,155	30,985,052	31,712,208	32,009,110
ii. 流動資産	2,278,331	2,471,954	3,122,619	3,143,758	3,609,536
II. 負債の部	1,729,358	1,685,200	1,680,854	1,646,158	1,776,422
i. 固定負債	911,468	914,948	911,067	900,578	890,691
ii. 流動負債	817,890	770,251	769,787	745,579	885,731
III. 正味財産	30,143,762	31,233,910	32,426,816	33,209,809	33,842,224

(内 訳)

項 目	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
I. 資産の部					
i. 固定資産					
(1)土地	1,730,738	1,730,738	1,730,738	1,730,738	1,730,738
(2)建物	6,441,525	6,778,345	7,724,346	7,523,156	7,329,060
(3)建物付属設備	2,179,199	2,192,746	2,275,395	2,028,700	1,801,593
(4)構築物	747,423	872,725	1,122,485	1,049,760	970,626
(5)機器備品及び図書	2,510,333	2,653,751	2,594,759	2,439,353	2,235,505
(6)車両	1,199	399	0	0	0
(7)電話加入権	2,229	2,229	2,229	2,229	2,229
(8)教育研究用ソフトウェア	27,396	40,885	28,556	19,663	11,104
(9)その他のソフトウェア	17,237	10,333	6,294	2,989	3,649
(10)保証金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
(11)出資金	4	4	4	4	4
(12)奨学金貸付金	39,650	36,350	32,150	31,200	28,400
(13)引当資産	13,273,573	15,958,207	15,465,093	16,881,412	17,893,197
ii. 流動資産					
(1)現金預金	3,036,354	2,211,078	2,867,115	3,039,967	3,495,683
(2)未収入金	253,301	184,598	165,370	18,932	26,272
(3)前払金	59,624	76,278	90,133	84,858	87,580
II. 負債の部					
i. 固定負債					
(1)退職給与引当金	913,409	906,819	907,003	898,545	890,691
(2)長期未払金	0	8,128	4,064	2,032	0
ii. 流動負債					
(1)未払金	246,789	160,228	132,022	105,994	205,864
(2)前受金	560,301	581,229	578,944	570,324	610,822
(3)預り金	32,218	28,793	58,819	69,260	69,044

5 理事会、常任理事会及び評議員会に関する事項

(1) 理事会

年 月 日	議 事 等	結 果
2017 年 4 月 20 日	議題 1. 理事の選任について 2. 評議員の選任について 3. 監事の推薦について 4. 2017 年度期末手当等の支給について 5. 学校法人京都薬科大学役員報酬等規程の一部改正について 6. 学校法人京都薬科大学クロス・アポイントメント制度取扱規則の制定について 7. 学校法人京都薬科大学就業規則の一部改正について 8. 資産運用の基本方針の策定について 報告事項 1. 第 102 回薬剤師国家試験の合格状況について その他	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
2017 年 5 月 19 日	議題 (1 回目) 1. 学校法人京都薬科大学事務組織規則の一部改正について 2. 学校法人京都薬科大学経理規則の一部改正について 3. 職員人事について 4. 2016 年度学校法人京都薬科大学事業報告及び 2016 年度学校法人京都薬科大学財務報告について (2 回目) 1. 監事の選任について 2. 第 2 期中期計画の最終報告について 3. 第 3 期中期計画の経過報告について その他	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
2017 年 5 月 30 日	議題 1. 理事長の選任について 2. 理事長職務代理者の選任、常任理事の指名及び財務担当理事等の選任について 報告事項 1. 2017 年度法人業務行事予定について その他	承認 承認
2017 年 6 月 26 日	議題 1. 理事長職務代理者の選任、常任理事の指名及び財務担当理事等の選任について 2. 各種委員会委員の指名について 3. 職員人事について 4. 学校法人京都薬科大学非常勤講師就業規則の一部改正について 5. 第 3 期中期計画の最終案について 報告事項 1. 学長報告（日本私立薬科大学協会総会）について 2. 2017 年度法人業務行事予定について その他	承認 承認 承認 承認 承認

2017 年 7 月 20 日	議題 1. 第 3 期中期計画の最終案について 報告事項 1. 学長報告について 2. 予算の執行状況（第 1 四半期）について 3. 進路の決定状況について 4. 内部監査の結果報告について その他	承認
2017 年 9 月 21 日	議題 1. 職員人事について 2. 京都薬科大学大学院学則及び京都薬科大学大学院履修規程の一部改正について 3. 学校法人京都薬科大学における教員の任期に関する規程の一部改正について 4. 第 3 期中期計画の重点項目とアクションプラン案について 報告事項 1. 進路の決定状況について 2. 科学研究費の採択状況について 3. 内部監査報告（バイオサイエンス研究センター）について その他	承認 承認 承認 承認
2017 年 10 月 19 日	議題 1. 職員人事について 2. 2017 年度期末手当等の支給について 3. 学校法人京都薬科大学寄附行為の一部改正について 4. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について 5. 生涯教育センター認証機関化のための薬剤師認定制度認証機構（CPC）への申請について ・京都薬科大学生涯教育センター規程の一部改正 ・京都薬科大学生涯教育センター運営委員会規程の一部改正 ・京都薬科大学生涯研修認定薬剤師制度実施要綱の制定 ・京都薬科大学生涯研修認定薬剤師制度評価委員会要綱の制定 ・京都薬科大学研修認定薬剤師審査委員会要綱の制定 ・京都薬科大学研修認定薬剤師認定基準の制定 6. シナジー・ラボ（仮称）構想について 7. 京都薬科大学教員組織に関する規程の一部改正について 8. 予算の執行状況（第 2 四半期）について 報告事項 1. 内部監査報告について（微生物・感染制御学分野） その他	承認 承認 承認 保留 承認 承認 承認 承認
2017 年 11 月 16 日	議題 1. 職員人事について 2. 2018 年度法人業務行事予定（案）について 報告事項 1. イタリア学長会議（CRUI）と京都 4 大学連携機構との協定の締結について 2. 内部監査報告について（臨床腫瘍学分野） 3. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について （2017 年 10 月理事会の継続審議事項） 4. 統合薬科学系の公募要領について その他 1. 大原監事からの照会事項について	承認 承認

2017 年 12 月 21 日	議題 1. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について 2. 資産運用方針について 報告事項 1. 学長報告について（日本私立薬科大学協会総会） 2. 進路の決定状況について（進路支援部長） 3. 海外出張報告について（教務課長） グローバル人材育成に向けたインターンシップ戦略 「米国の大学経営・財務戦略最新事情視察団（第 10 回）」 その他	承認 承認
2018 年 2 月 22 日	議題 1. 職員人事について 2. 2017 年度決算見込み及び 2018 年度予算原案について 3. 創立記念日について 報告事項 1. 資産運用について（理事長） 2. 2017 年度予算の執行状況（第 3 四半期分）について 3. 第 9 回学生満足度調査実施結果報告について（企画・広報課長） 4. 2018 年度入学試験の出願状況について（入試委員長） 5. 進路の決定状況について（進路支援部長） 6. 生涯教育センター認証機関化のための薬剤師認定制度認証機構（CPC）申請結果について（生涯教育センター長） 7. 美術品の寄附について（理事長） 8. 内部監査報告について（理事長） その他	承認 承認 保留
2018 年 3 月 16 日	議題 1. 職員人事について 2. 2018 年度事業計画・予算（案）について 3. 2018 年度学校法人京都薬科大学資金収支予算案及び 2018 年度学校法人京都薬科大学事業活動収支予算案について 報告事項 1. 2025 委員会について（学長） その他	承認 承認 承認

(2) 常任理事会

年 月 日	議 事	結 果
2017 年 4 月 12 日	理事会議案先議事項 1. 理事の選任について 2. 評議員の選任について 3. 監事の推薦について 4. 2017 年度期末手当等の支給について 5. 学校法人京都薬科大学役員報酬等規程の一部改正について 6. 学校法人京都薬科大学クロス・アポイントメント制度取扱規則の制定について 7. 学校法人京都薬科大学職員就業規則の一部改正について 8. 資産運用の基本方針の策定について 理事会報告事項 1. 第 102 回薬剤師国家試験の合格状況について その他	
2017 年 5 月 10 日	常任理事会決議事項 1. 京都薬科大学貸与型奨学金規則の一部改正について 理事会（1 回目）議案先議事項 1. 職員人事について 2. 2016 年度学校法人京都薬科大学事業報告及び 2016 年度学校法人京都薬科大学財務報告について 評議員会議案先議事項 1. 評議員会（評議員）の役割 2. 2016 年度学校法人京都薬科大学事業報告及び 2016 年度学校法人京都薬科大学財務報告について 3. 理事の選任について 4. 監事の同意について 評議員会報告事項 1. 学長報告 理事会（2 回目）議案先議事項 1. 監事の選任について 2. 学校法人京都薬科大学事務組織規則の一部改正について 3. 学校法人京都薬科大学経理規則の一部改正について 4. 第 3 期中期計画（経過報告）について その他	承認
2017 年 7 月 12 日	理事会議案先議事項 1. 第 3 期中期計画の最終案について 理事会報告事項 1. 学長報告について 2. 予算の執行状況（第 1 四半期）について 3. 進路の決定状況について その他	
2017 年 9 月 13 日	理事会議案先議事項 1. 職員人事について 2. 京都薬科大学大学院学則及び京都薬科大学大学院履修規程の一部改正について 3. 学校法人京都薬科大学における教員の任期に関する規程の一部改正について 4. 第 3 期中期計画の重点項目とアクションプラン案について 理事会報告事項 1. 進路の決定状況について 2. 科学研究費の採択状況について その他	

2017 年 10 月 11 日	常任理事会決議事項 1. 学校法人京都薬科大学育児休業等に関する規程の一部改正について 2. 学校法人京都薬科大学介護休業等に関する規程の一部改正について 評議員会議案先議事項 1. 第 3 期中期計画について 2. 学校法人京都薬科大学寄附行為の一部改正について 評議員会報告事項 1. 学長報告について 理事会議案先議事項 1. 職員人事について 2. 2017 年度期末手当等の支給について 3. 学校法人京都薬科大学寄附行為の一部改正について 4. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について 5. 予算の執行状況（第 2 四半期）について 6. 生涯教育センター認証機関化のための薬剤師認定制度認証機構（CPC）への申請について 理事会報告事項 1. 内部監査報告について（微生物・感染制御学分野） その他 1. シナジー・ラボ（仮称）構想について その他	承認
2017 年 11 月 8 日	理事会議案先議事項 1. 職員人事について 2. 2018 年度法人業務行事予定（案）について 理事会報告事項 1. イタリア学長会議（CRUI）と京都 4 大学連携機構との協定の締結について 2. 内部監査報告について（臨床腫瘍学分野） その他 1. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について（2017 年 10 月理事会の継続審議事項） 2. 統合薬科学系の公募要領について 3. 京都薬科大学教員組織規程第 6 条「…学長が理事長と協議のうえその数を増減する…」の記述について その他	
2017 年 12 月 13 日	常任理事会決議事項 1. 職員人事について 理事会議案先議事項 1. 学校法人京都薬科大学個人情報保護規程の一部改正について 理事会報告事項 1. 学長報告（日本私立薬科大学協会総会） 2. 内部監査報告について（理事長） 3. 進路の決定状況について（進路支援部長） 4. 海外出張報告について（教務課長） グローバル人材育成に向けたインターンシップ戦略 「米国の大学経営・財務戦略最新事情視察団（第 10 回）」 5. 資産運用委員会の検討状況について（理事長） その他	承認

2018 年 2 月 14 日	常任理事会決議事項 1. 職員人事について 2. 学校法人京都薬科大学事務職員給与規程の一部改正について 3. 学校法人京都薬科大学住居手当支給要綱の一部改正について 理事会議案先議事項 1. 職員人事について 2. 2017 年度予算の執行状況（第 3 四半期分）について 3. 2017 年度決算見込み及び 2018 年度予算原案について 4. 創立記念日について 理事会報告事項 1. 資産運用について（理事長） 2. 第 9 回学生満足度調査実施結果報告について（企画・広報課長） 3. 2018 年度入学試験の出願状況について（入試委員長） 4. 進路の決定状況について（進路支援部長） 5. 生涯教育センター認証機関化のための薬剤師認定制度認証機構（CPC）申請結果について（生涯教育センター長） 6. 美術品の寄附について（理事長） 7. 内部監査報告について（理事長） その他	承認 承認 承認
2018 年 3 月 7 日	常任理事会決議事項 1. 職員人事について 2. 学校法人京都薬科大学文書処理規程の一部改正について 3. 学校法人京都薬科大学文書保存要綱の制定について 4. 学校法人京都薬科大学謝金取扱要綱の制定について 5. 学校法人京都薬科大学が実施する会議等における飲食費支出要綱の制定について 評議員会議案先議事項 1. 2018 年度事業計画・予算（案）について 2. 2018 年度学校法人京都薬科大学資金収支予算案及び 2018 年度学校法人京都薬科大学事業活動収支予算案について 評議員会報告事項 1. 学長報告について 理事会議案先議事項 1. 職員人事について 2. 2018 年度事業計画・予算（案）について 3. 2018 年度学校法人京都薬科大学資金収支予算案及び 2018 年度学校法人京都薬科大学事業活動収支予算案について 理事会報告事項 1. 2025 委員会について その他	承認 承認 承認 承認 承認

(3) 評議員会

年 月 日	議 事	結 果
2017 年 5 月 19 日	議題 1. 評議員会（評議員）の役割について 2. 2016 年度学校法人京都薬科大学事業報告及び 2016 年度学校法人京都薬科大学財務報告について 3. 理事の選任について 4. 監事の同意について 報告事項 1. 学長報告について その他	了 承 了 承 了 承 了 承
2017 年 10 月 19 日	議題 1. 第 3 期中期計画について 2. 学校法人京都薬科大学寄附行為の一部改正について 報告事項 1. 学長報告について その他	了 承 了 承
2018 年 3 月 16 日	議題 1. 2018 年度事業計画・予算（案）について 2. 2018 年度学校法人京都薬科大学資金収支予算案及び 2018 年度学校法人京都薬科大学事業活動収支予算案について 報告事項 1. 学長報告について その他	了 承 了 承